

## 特集 IV

## 特集 IV

## 増え続ける予備軍、産業がいかに訴求できるか

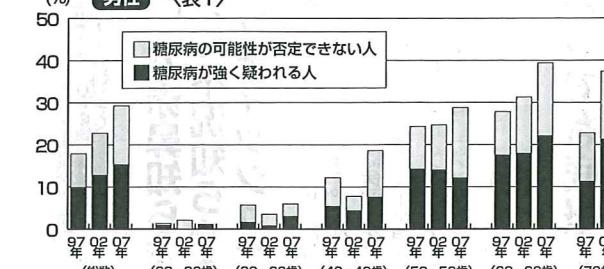
## 糖尿病判断基準見直しの動きも

## 抗糖尿病商材特集

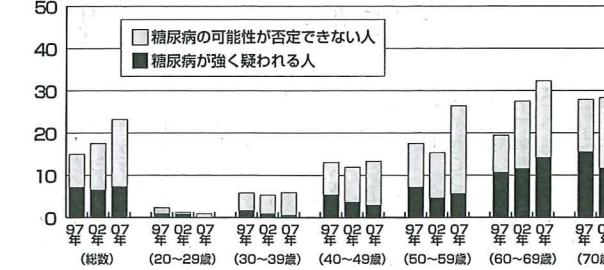
昨年12月に厚生労働省が発表した国民健康・栄養調査結果(平成19年)の概要では糖尿病が強く疑われる人は約1320万人。合わせて約2210万人と推定され、前年の調査時(合わせて約1870万人を推定)よりも増える結果となつた。現状は国策がうまく進んでいるとはいえず、この分野での健康食品への潜在的な需要は高い。一方糖尿病の診断基準(従来は血糖値)として、過去1~2ヶ月の平均的な血糖の状態を示す血糖検査値「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」の導入の検討が日本糖尿病学会により進められている。

糖尿病は、糖代謝の異常による血液中のアドウ糖濃度が高くなり、さまざまな合併症を起こすとされている危険な疾病。特に40代以上の男性からじうした予備軍の人気が増え始めるとされる。だが、昨年12月に厚生労働省が発表した国民健康・栄養調査結果を見る限り、予備軍の人が「糖尿病の可能性が否定できない人」として、女性においても糖尿病の可能性が否定できない人(HbA1cの値が5.6%以上、6.1%未満)の増加率が高まっていいる傾向が見られる(表1、2参照)。

「糖尿病が強く疑われる人」「糖尿病の可能性が否定できない人」の年次推移 (%) 男性 <表1>



女性 <表2>



「糖尿病の疑い」群で治療なし割も

現状増え続けている糖尿病予備軍は健康食品市場にとって潜在的な大きな市場と捉えられることも

病の予防目的とした政策だが、今後どのような結果を残していくのが注目されている。

昨年から始めた特定検査制度・特定保健指導は、糖尿病など生活習慣病を受けたことがない

人が約1320万人。合わせて2210万人でこの数字は基本的に毎年増え続けている。

昨年から始めた特定検査制度・特定保健指導は、糖尿病など生活習慣病を受けたことがない

人が約1320万人。合わせて2210万人でこの数字は基本的に毎年増え続けている。